

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	濱崎 健弥
論文担当者	主査 岸本 裕充
	副査 道免 和久
	副査 齊藤 寿郎
学位論文名	Change in Feeding and Swallowing Function in Elderly Patients with Isolated Hospitalization for COVID-19: A Retrospective Cohort Study (COVID-19 のため隔離入院となった高齢患者における摂食・嚥下機能の変化：後ろ向きコホート研究)
論文審査の結果の要旨	
<p>Coronavirus disease 2019 (COVID-19)の高齢患者では、隔離に伴い食事介助などのケアの質が低下するため摂食・嚥下機能低下が懸念されるが、COVID-19 患者における摂食・嚥下機能の変化と予後との関連については十分に検討されていない。申請者らは 2021 年 12 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までに神戸市立医療センター西市民病院へ入院した 65 歳以上の COVID-19 患者を対象とし、Functional Oral Intake Scale (FOIS) を発症前と退院時に測定し、発症後 180 日間の死亡率を評価した。主要評価項目は入院中の FOIS 低下度数とし、副次評価項目は 180 日死亡率とした。データは電子カルテレビューと電話調査により収集し、順序ロジスティック回帰モデルを用いて、発症前 FOIS と FOIS 低下度数との関連を調整共通オッズ比で評価した。共変量は年齢、性別、身体的フレイル、併存疾患、認知症、ワクチン接種歴、COVID-19 重症度とした。また、隔離期間の長さを 14 日で区切り、FOIS 低下度数を Wilcoxon の順位和検定により比較検討し、FOIS 低下度数と 180 日死亡率の関連は Kaplan-Meier 法で評価した。</p> <p>337 名が登録され、発症前 FOIS の分布は 7: 190 人、6: 89 人、5: 40 人、4: 18 人であった。COVID-19 重症度は各群で概ね類似していた。生存退院者 289 人中 138 人 (47.8%) において入院中に FOIS が少なくとも 1 低下した。発症前 FOIS 7 と比較した調整共通オッズ比は発症前 FOIS 6: 2.23、5: 2.96、4: 2.89 であった。隔離期間が 14 日を超えると FOIS 低下度数中央値は 0 から 1 に有意に増加した。生存退院した 287 名において、FOIS 低下度数は 180 日死亡率と有意に関連していた。</p> <p>本研究は、COVID-19 により入院隔離された高齢患者は摂食・嚥下機能が低下しやすく、退院後死亡率と関連することを示した貴重なものであり、学位授与に値すると判断した。</p>	